



JAMCA ニュース

No.99

2018年10月1日

発行
協会事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

編集事務局

一級自動車整備士登録試験についての反省

広島自動車大学校 理事長
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

古澤 敏昭



科学の進歩は想像を超えるスピードで進んでいる。第4次産業革命は、AI（人工知能）によって実現するといわれている。通信でみると、アナログからデジタルに変化し、情報伝達（手法）は革新を果たしてあらゆる分野に利用されている。自動車産業に自動運転車の中核となる自動制御システムの開発を手掛ける研究会社が設立される。

自動制御システムは標準化される方向に進み、将来は外販を目指すとの情報が公表された。自動車産業は、次世代車市場における競争力向上に向けて、自動運転車の中核となる制御システム開発の競争に突入することになるだろう。

大学教育についてはたとえば、「機械システム+電気電子システム」にAI（人工知能）など先端分野を組み合わせた工学部ができるとの情報がある。以上の環境下において、自問自答で現状を考えてみた。

一級自動車整備士4年課程が誕生した時、大学卒業の資格を取得するために産業能率大学通信教育課程現代マネジメント学科を併修することとした。しかし、残念ながら、一級自動車整備士4年課程への需要は思ったほど伸びていないのが現状である。

なぜ学生が一級自動車整備士に魅力を感じないのか。それは、4年

課程の専門学校で高度専門士を取得できるにもかかわらず、社会が高度専門士に対して大学卒業者と同等の処遇をしていない点が大いと思われる。4年間勉学に励み高度な技術を身につけた学生を、一般の大学卒業生扱いで採用するのが必要だと思う。そして、改善された労働条件が求人募集で発表されるならば、学生は大いに希望をもてるだろう。

一級資格試験合格率の大幅な下落も学生にとっては懸念事項だろう。JAMCA 会員校の一級自動車整備士登録試験（筆記試験）合格率は次のように推移している。

・ H27 年 3 月実施	80.1%
・ H28 年 3 月実施	83.5%
・ H29 年 3 月実施	52.9%
・ H30 年 3 月実施	55.4%

平成 27 年、平成 28 年には 80% 台にあった合格率が、平成 29 年、平成 30 年には 50% 台に落ちている。これは、「期待し求めるハードル」が高くなったからだと考える。しかし、このようなことが続くと、養成校の教育指導に問題があったのではないかということになる。教科書の内容等にチェックを行ない、期待される内容・水準に合った教科書の改訂や指導方法を考えるべきだと思う。この機会にメーカーが行なっている一級教科書内容に改定することにより、時代の

進歩に合わせて臨機応変に対応しないと自滅することになるであろう。

一級資格試験の内容が変わったことにより合格率が落ちたとするならば、それが養成校に問題があるとしても、年 1 回の試験を 2 回の実施に増やすことを希望する。なぜならば、学校卒業後に再度試験に挑戦し合格するのは大変困難なことと思うからだ。半年の延長で再度挑戦できる機会を与えてほしい。一級自動車整備士登録試験に合格することが卒業条件となっていくのであれば、一級資格を持って他業界に就職するチャンスも生まれるだろう。それは業界を越えた相互啓発にもつながり、試験回数を増やすことも、社会のコンセンサスが得られるのではないか。現行の試験は、「一級受験者に対する期待や「求める能力の高さ」が分からないと思う。年 2 回の試験を実施する方向を目指すならば、JAMCA の積極的関与も求められるだろう。国との協力により公的別法人を作り国家試験を実施していく可能性もあるかもしれない。

CONTENTS

2 面	電動化と環境対応が進むこれからの自動車に 相応しい「超小型 EV 向け MR 流体ブレーキ」
3 面	クルマ大好き！、活躍!! 女子! 卒業生
4 面・5 面	整備士不足に一手(国や企業、 学校による子供たちへの種まき)
6 面・7 面	協会トピックス・地区通信
8 面	私の教材活用・編集後記